

# 塩屋文化協会 30周年記念事業

## 日高川河口干潟についての講演会と観察会

～日高川干潟に棲む生き物に親しもう～

**干潟とは** 1日に2回、潮の満ち引きによって陸地になったり水没したりを繰り返す平らな砂泥地のことです。ここは陸域から流れてきた有機物や栄養塩が集まる場所で、アサリのような二枚貝、釣りの餌としておなじみのゴカイ類、カニやヨコエビなどの甲殻類といった底生生物が生息しています。また、干潟は魚や鳥の餌場として、微生物による有機物分解や水質浄化の場としても非常に重要です。

**日高川河口干潟は** おおね御坊大橋より下流両岸に見られますが、特に天田橋より下流の熊野川（いやがわ）と王子川との合流地点に広がっています。ここにはシオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類）ハクセンシオマネキ（準絶滅危惧）やなどの貴重な動物や全国的にも有数のハマボウ群落で、ヨシ群落とともに塩生湿地植生として重要です。そのため、和歌の浦干潟、有田川河口干潟と併せて『ラムサール条約』の登録候補地として選ばれています。

**6月は環境月間。** 干潟をとりまく自然と、そこにすむ生物と触れ合うことで、私たち人間も様々な生物と共生しているということを感じてみませんか。【参照：和歌山県レッドリスト(素案)】

『ラムサール条約』

【引用：環境省HP】

ラムサール条約は1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約です。正式名称は、「特に水鳥の生息地として、国際的に重要な湿地に関する条約」といいますが、採択の地にちなみ一般に「ラムサール条約」と呼ばれています。

干潟は  
生き物たちの  
宝庫だよ  
楽しみながら  
自然にふれて  
みよう



こが つねのり  
古賀 庸憲さん

和歌山大学 教育学部 教授

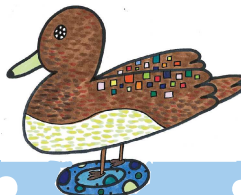
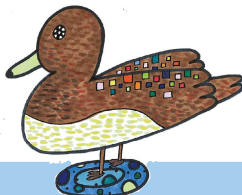
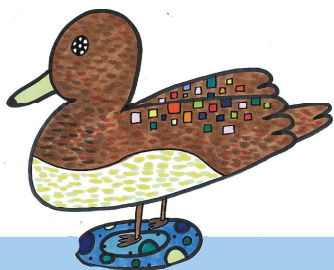
研究は干潟のカニやヤドカリの  
行動・生態学が専門。博士（学術）

古賀先生より

2000年4月に和歌山大学に着任しました。研究の傍ら2002年から和歌の浦干潟観察会で講師を務め、2004年からは有田川干潟でも観察会を始めました。以後、毎年観察会を行い、これまでに50回以上開催しました。

観察会は主に親子連れで賑わいますが、お一人様での参加も大歓迎です。

募集要項は裏面に



カモ



シオマネキ



チコガニ



トビハゼ

きどじみやこ 絵

# 日高川干潟に棲む生き物に親しもう



トビハゼ



ハクセンシオマネキ



チコカニ



アシハラガニ



日高川河口干潟



ミサゴ (魚鷹)



アオサキ

## 第一部

講演会 『日高川河口に棲む生き物たち』

講師 和歌山大学教育学部生物学教授 古賀先生

日時	6月5日(日) 午後1時15分 ~ 2時30分
場所	河南中学校体育館 (御坊市塩屋町北塩屋300)
申込み	申込み不要 定員なし 当日お越し下さい
会費	無料
駐車場	河南中30台 (できるだけ乗り合わせて来て下さい)

マスク着用・手指の消毒をお願いしております。

## 第二部

日高川河口干潟観察会

講師 和歌山大学教育学部生物学教授 古賀先生

日時	6月5日(日) 午後3時 ~ 4時30分 (雨天中止)
場所	日高川河口 丸紀木材工業(株)様側道堤防 (駐車可)
募集定員	小学生以上 <b>申込み先着40人</b> (小学生は保護者同伴で)
会費	無料
持ち物	○タオル ○軍手 ○水筒 ○長靴 (ズック・サンダルは禁止) ○帽子 着替え たも網 バケツ スコップ(小) 双眼鏡 カメラ ○印は必需品です



ハマボウ群生地



## 日高川河口干潟について講演会と観察会

お問合せ ▶ 塩屋文化協会  
090-3617-3236 溝口

日高川干潟観察会(定員: 40人)  
場所/日高川河口干潟

お申込み ▶ 塩屋文化協会  
0738-22-5547 柏木  
090-8798-2378 阪本

天田橋南詰とファミリーマートとの間の信号を北へ曲がり ➡ の方向にお進み下さい

主催/塩屋文化協会 後援/塩屋公民館 御坊市教育委員会